

《担当者名》教授 / 安彦 善裕 yoshi-ab@ 教授 / 根津 尚史 tnezu@ 講師 / 植原 治 osamu@

【概要】

現代の高度化した歯科医療を担い、さらに、その発展に寄与するためには、単に基礎的な知識や技術を修得するのみならず、問題を発見してそれに対応する能力を開発するとともに、豊かな創造性や独創性を育む必要がある。歯科医学研究 では、学生自身が見出した研究テーマに対して、科学的な方法論に基づいて取り組むことによって、(1)現象をつぶさに観察し客観的に捉える能力、(2)論理的に思考する能力、(3)問題を解決して目標を達成する能力、(4)研究成果を適切にまとめ分かりやすく発表する能力を養う。

【学修目標】

以下の項目について説明する。

- 研究課題の設定
- 研究計画の作成
- 研究計画の遂行
- 研究のまとめ(論文の作成)
- 研究成果の発表

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	研究テーマの決定	現在までに学んだ歯科医学の知識を整理し、興味ある課題や疑問に思う点の中から研究テーマを見出す。この過程で、教官とのディスカッションや文献の調査を綿密に行って、(1)現時点で何がどこまで分かっているのか、(2)明らかにすべき現象や解決すべき問題は何であるのかを明確にし、達成すべき目標を設定する。	安彦 善裕 根津 尚史 植原 治
3) 4	研究計画の作成	研究課題を実行するための実験計画を作成する。この際、使用できる研究設備や必要な実験器材及び薬品等を十分に調査し、実現可能な実験計画を作成することに留意する。	安彦 善裕 根津 尚史 植原 治
5) 12	研究の遂行	実験計画に基づいて研究を遂行する。データの精度や再現性を考慮しながら、実験結果に考察を加える。予想しなかった実験結果が得られた場合は、その理由を十分に検討するとともに、教官ともディスカッションを行い、必要があれば実験計画に修正を加える。実験の進捗状況は、逐次指導教官に報告する。	安彦 善裕 根津 尚史 植原 治
13) 14	研究のまとめ(論文の作成)	研究成果を論文にまとめる。この際、論文を書く上での正しい図表の書き方や簡潔で明確な文章の書き方についても学ぶ。 論文の目次の例を以下に示す。 1. 研究の目的 2. 実験方法 3. 実験結果 4. 考察 5. 結論	安彦 善裕 根津 尚史 植原 治
15	研究発表	研究の成果を口頭で発表する。スライドを用いて、研究の背景や目的、実験方法、得られた研究成果の科学的な意味や臨床応用の可能性、今後の展望に関して分かりやすく発表する。また、様々な質問に的確に答えられるように準備する。	安彦 善裕 根津 尚史 植原 治

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

論文(70%)、プレゼンテーション(30%)

【学修の準備】

予習として、興味ある研究テーマについて調べる。(80分)

復習として、研究計画の作成及び遂行のための準備をする。(80分)

復習として、研究のまとめ、発表会の準備をする。(80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージにおける疾患の予防、診断および治療を実践するための基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健、歯科医療技術を修得する。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につける。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につける。

DP4.歯科医療の専門家として、地域的、国際的視野で活躍できる能力を身につける。

DP5.チーム医療（保健と医療と福祉）において協調し建設的に行動できる態度と能力を身につける。

【実務経験】

安彦 善裕（歯科医師）、植原 治（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師としての臨床経験を活かし、歯科医学に関する研究意欲を涵養する教育を行っている。